



アスファルト製と可搬型ゴム製を使い分け、 道路のカーブに沿ってスムーズ横断歩道を設置



ノウハウを有する機関と連携し

進め方を的確に選択





広域図



整備計画等 策定状況

生活道路対策エリア

対策の内容

- ▶ ゾーン 30 に指定
- 単路部ハンプ(スムーズ横断歩道)1 箇 所 他

生活道路の 課題

- ▶ 国道 58 号からの抜け道利用が多い
- ▶ 送迎車による登校が多いため、通学時間帯に交通量が増加

設置の 特徴

アスファルト製と可搬型ゴム製を使い分け、 道路のカーブに沿ってスムーズ横断歩道を設置

物理的デバイスの概要

設置箇所



背景の地図の出典:国土地理院

設置内容

	内 容	備考	
設置箇所数	1 箇所		
設置時期	2017年12月	・社会実験として設置した後に存置	
ハンプの形状	【単路部ハンプ (スム-ス [*] 横断歩道)】 ・ 平坦部の長さ 3m (最短部) ・ ハンプの高さ 10cm ・ 傾斜部の勾配 平均5%	• 技術基準を参考	
構造及び 付属施設	アスファルト製ハンプ(平坦部)可搬型ゴム製ハンプ(傾斜部)ゴム製ポール仮設看板	• 可搬型ゴム製ハンプ: ベンガラ	
技術的な工夫	 ◆ハンプの平坦部をアスファルト舗装にすることで道路のカーブに沿った設置を可能とし、傾斜部に可搬型ゴム製ハンプを用いることで、理想的なサイン曲線形状で設置 ◆可搬型ゴム製ハンプは、一部に特殊サイズ(幅 25cm)を適用し、道路幅にあわせて設置 ◆現況の歩道高さ(15cm マウントアップ)をスムーズ横断歩道(高さ 10cm)に合わせて切り下げ、歩きやすさを確保 ◆ハンプ下の下水道マンホールは、可搬型ゴム製ハンプを外すことで管理 ◆路面排水がハンプでせき止められることに留意し、街渠ますにドレーンを形成することで排水路に直接落とせるようにした 		

設置状況





概観 通行状況



アスファルト製ハンプと 可搬型ゴム製ハンプの併用



歩道部とのすりつけ



ゴム製ポール及び自発光灯



仮設看板

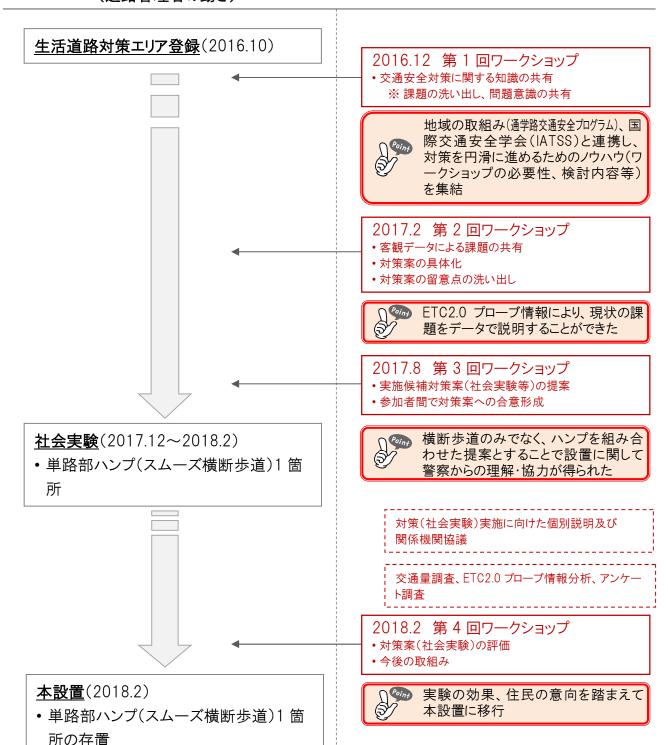
合意形成 のポイント

ノウハウを有する機関と連携し 進め方を的確に選択

設置に至るまでの経緯と合意形成の概要

設置に至るまでの経緯 (道路管理者の動き)

合意形成の概要



PDCA の中での合意形成の内容とポイント

段階	説明手法・内容	道路管理者の考える 🎧 💯 🔭
段陷	武功士広•内谷	合意形成のポイント 😂
現況調査	❖ 第1回ワークショップ	
計画策定 〈Plan〉	実施日 2016年12月12日	•検討の立ち上げ段階から、浦
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	参加者 自治会、学校関係者、沖縄総合事務局(オブザーバー)、浦添市、浦添警察署、国際交通安全学会	添市における既存の取組み (通学路交通安全プログラ
)、備水川、備水言宗省、国际文地女主子云 (IATSS)	ム)と連携し、対策を検討
		●ノウハウを有する機関の協力
		により、合意形成の進め方や 対策に関する的確な知識が
		得られた
	❖ 第2回ワークショップ	•
	実施日 2017年2月27日	現状の課題は、ETC2.0 プロ
	参加者 自治会、学校関係者、沖縄総合事務局(オブザーバー)、浦添市、浦添警察署、国際交通安全学会	一ブ情報を活用することで、
	(IATSS)	住民の感覚をデータでわかり やすく説明できた
	提示資料 交通量調査結果、ETC2.0 プローブ情報、対策メニュー	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	. # 0 D - 1	
	* 第3回ワークショップ	
	実 施 日 2017年8月30日 参 加 者 自治会、学校関係者、沖縄総合事務局(オブザーバ	●横断歩道のみでなく、ハンプ
	一)、浦添市、浦添警察署、国際交通安全学会	を組み合わせた提案とすることで設置に関して警察からの
	(IATSS) 提示資料 対策案、実証実験計画	理解・協力が得られた
	此小臭们	
	❖ 第4回ワークショップ	
	実施日 2018年2月9日	実験の効果、住民の意向を
	参 加 者 自治会、学校関係者、沖縄総合事務局(オブザーバー)、浦添市、浦添警察署、国際交通安全学会	踏まえて本設置に移行
	(IATSS)	•4 回のワークショップ実施により、関係者と十分なコミュニケ
	提示資料 効果検証資料、アンケート結果	一ションを図ることができた
1		
対策実施	❖ 本設置	
<do></do>	WEREH!! 0010 5 0 D	



2018年2月 運用開始

※社会実験

実施日 2017年12月~2018年2月 内 容 単路部ハンプ(スムーズ横断歩道)の設置

- •可搬型ゴム製ハンプを用いた 構造とすることで、"ダメならい つでも撤去する"という姿勢を 示し、住民に安心感を与える ことができた
- 社会実験後に存置



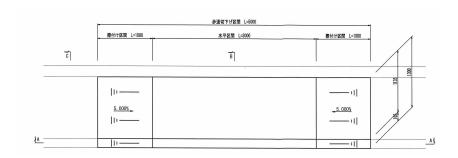
対策改善 <Action>

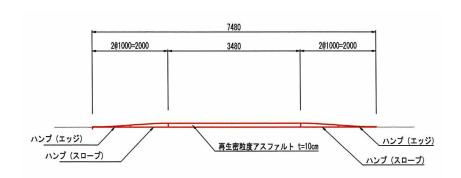
合意形成における道路管理者からみた特筆事項

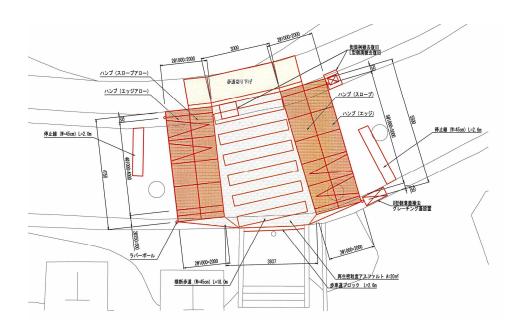
円滑な検討に 結びついた点	・ ノウハウを有する機関の協力により的確な進め方を選択できた。・ 4 回のワークショップにより、十分なコミュニケーションを確保した。
考えられる 今後の工夫	可搬型ゴム製ハンプは、マンホール部分のみ取外せるような対応ができるとよい。(現場での加工も考えられる)ゴム製ポールに取り付けた自発光灯は紛失する恐れがあるため、今後は自発光鋲の設置も考えられる。

その他参考資料

❖ 単路部ハンプ(スムーズ横断歩道)設計図







提供:浦添市

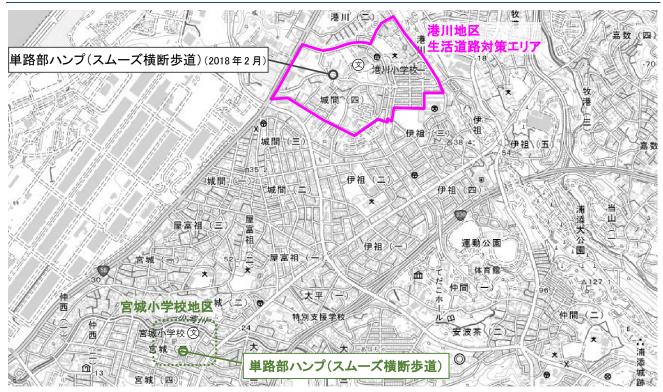


他地区 への拡大

生活道路対策エリア外の 周辺地区でもスムーズ横断歩道を設置

物理的デバイスの概要

設置箇所



背景の地図の出典:国土地理院

宮城小学校地区

整備計画等 策定状況	_
対策の内容	単路部ハンプ(スムーズ横断歩道)1箇所 他
生活道路の 課題	通学路安全対策プログラムにおいて、学校・警察との意見交換で対策が必要とされた

設置内容

	内 容	備考	
設置箇所数	1 箇所		
設置時期	2020年3月		
ハンプの形状	【単路部ハンプ(スムーズ横断歩	• 技術基準を参考	
	道)】	• 傾斜部はサイン曲線で施工	
	• 平坦部の長さ 4m		
	• ハンプの高さ 10cm		
	• 傾斜部の勾配 平均 5%		
構造及び	アスファルト製ハンプ	・薄層カラー舗装	
付属施設	• 平坦部・傾斜部のカラー化	• 平坦部・傾斜部:ベンガラ	
	• 路面表示		
	• 警戒標識		
その他の対策	・イメージハンプ		
技術的な工夫	◆設置箇所が平坦・直線であったため、傾斜部も含めてすべてアスファルト舗装		
	による施工とした		
	◆スムーズ横断歩道の直近に交差道路があるため、スムーズ横断歩道を通過し		
	た車両が速度回復しないようにイメージハンプを設置		



設置状況





概観(スムーズ横断歩道とイメージハンプ)

概観





現道とのすりつけ

現道とのすりつけ